第４回

薩摩川内市総合教育会議

会議録

開催日時：平成３０年２月２日（金）　開会：１３時３０分

閉会：１５時２５分

開催場所：薩摩川内市役所本庁舎　５階　教育委員会室

出席者：

岩切市長、上屋教育長、三本教育長職務代理者、上川教育委員、坂口教育委員、

軍神教育委員

事務局：

（市長部局）

田代総務部長、平原総務課長、黒木総務課長代理、清藤企画総務グループ長

（教育委員会）

宮里教育部長、小原教育総務課長、橋口教育総務課長代理、白江教育総務課主幹、

上口学校施設整備室長、熊野学校教育課長、十島社会教育課長、上原文化課長代理、峯少年自然の家所長、本野中央図書館長

傍聴者：なし

資料：別紙による

議事録

平成３０年２月２日（金）

【開会時刻　１３：３０】

（１　会次第１：開会のことば）

総務課長　　ただいまから、第４回薩摩川内市総合教育会議を開会いたします。本日は、議題案件が２件と報告案件が２件ございます。よろしくお願いいたします。それでは、岩切市長にご挨拶をお願いいたします。

（２　会次第２：市長挨拶）

岩切市長　　皆さん、こんにちは。本日は寒い中、お忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。今回で第４回ということで、ただいまから薩摩川内市総合教育会議を開催いたします。

本日の議題として「平成３０年度薩摩川内市教育委員会の基本方針について」と「二学期制の推進について」の２件を、また、報告事項としまして「薩摩川内市立東郷学園義務教育学校の校章とシンボルマークの制定について」と「薩摩川内市立東郷学園義務教育学校の校歌の制定について」をお示しすることとしております。これらの議題を中心にしますけれども、「その他」の項目も設けてございますので、教育委員の皆さんが考えていらっしゃる教育行政について、色々な意見をお聞かせ願えればと考えています。

また、ここ最近、色々な事件や事故が起きています。学校の先生が生徒を殴って重傷を負わせた、いじめによる自殺が起きている等の内容がテレビ等で報道されています。したがって、本市の教育現場でそういったことが起きないよう、常日頃より教育委員の皆さんの意見を聞きながら教育行政を推進すべきであると考えていますので、どうかよろしくお願いいたします。

（３　会次第３：出席者紹介）

総務課長　　ありがとうございました。ここで、本日ご出席の皆様をご紹介させていただきます。

まず、市長の岩切　秀雄様でございます。教育長の上屋　和夫様でございます。教育委員の三本　伴子様でございます。同じく教育委員の上川　幸子様でございます。同じく教育委員の坂口　由一様でございます。同じく教育委員の軍神　利喜男様でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入りますが、市長が会議の議長となることから、ここからの進行を市長によろしくお願いいたします。

（４　会次第４：議題１「薩摩川内市教育委員会基本方針」について）

岩切議長　　それでは、議題１の「平成３０年度薩摩川内市教育委員会基本方針」について、教育委員会の説明をお願いします。

※　会議資料に基づき上屋教育長が説明。

岩切議長　　ただいま説明が終わりましたが、何かご意見等ありませんか。

坂口委員　　この「１０分×学年＋３０分以上」という取組は、今までと同じということでしょうか。

軍神委員　　それと、小中一貫教育が本市の目玉となっていますが、だいたい３ヶ月に1回程度、授業を公開して教職員の質を高めており、もう２巡目が回ってきたところですが、今後も公開等を続けていかれますか。それとも、新たな取組を考えていらっしゃいますか。

上屋教育長　小中一貫教育を通じた取組はもう３巡目に入っておりますけれども、これまでは実践公開ということで、自分達の取組を紹介しお互いが学び合うということでしたが、そのレベルからもう１歩上へ上がろうとのことで、自分達が研究してきたいいものを皆に紹介する等してさらに高め合うといった研究公開に取り組んでいきたいと考えております。そして、今後もこの取組を続けていくこととし、３年に１回は中学校区単位で研究公開を実施するということで考えております。

軍神委員　　もう１つ、生徒指導の関係等で色々ありますけれども、校長職をしていてどのように進めるべきか考えていたのが特別支援教育でして、これが必要な子供は平均９％、私が校長に就いた頃は５％でしたから、これが１０％になっていくのではないかというところです。この割合を北中に当てはめると、約７５０名の生徒がいると１００名近くがいるということで、そうなると特別支援学級だけではなく各校区の支援員等もおりますけれども、やはり、その子達を手厚く支援する、そして、その子供達の中で障害は持っているけれども高機能である等ということで、手立てがよければ社会に出てもさらに活躍できるということで、少し言い方がおかしいかもしれませんが、そういう子供達をどのように救っていくかというところで、教員だけでは足りない部分もあります。また現在、私はつくし園にいますけれども、子供達への対応が早ければ早い程、成果があると考えます。小学校低学年くらいの時点から少しでも子供達が安定しやすくしておけば、例えば、衝動として急に教室を出て行ったり、怒り出したり、人を叩いたりといった行動が、完全に収まることはありませんが、年月を経て落ち着いてくることもありますので、そういう視点で核となる取組がなかなかできなくて、それらの点が学校としましても非常に困っております。

上屋教育長　今の点につきましては、障害者差別解消法がございまして、できることはきちんと行政が対応しなければならないということで、今年度から県教委も、１人でもいたらきちんと解消しようという対応に変えてきました。昨年までは、知的なものも含めて２～３名いたら一緒に対応していましたが、個々に対応した障害者教育の支援ということで県が舵を切り替えましたので、それに基づいて市もさらに支援を、ということでございます。従いまして、先程おっしゃられたとおり、学校を出て社会に進む中での連携は、これからもっとしっかりと取り組まなければならないでしょうし、つくし園等との連携・交流も非常に大事だと考えます。

軍神委員　　今、８５％くらいが下校中に来ていることから、重度の子供はこちらのような施設に進む、あるいは比較的軽度の子供は幼稚園や保育園に進んでいただくのがいいのではと考えます。今は障害者差別解消法もありますし、やはり入りたい所へということで保護者の方も積極的に前に出てきていいことだと考えます。幼稚園や保育園に入りたいという方は多いのですけれども、定員のことがあってなかなか入れないという状況です。ですから、程度が軽くなってきた子供が幼稚園等に進めるよう定数を増やして、今、待っている子供達を入れることが非常に大事ではないかということです。小・中学校の中で、もう少しそういった支援をしていくということであれば人員を増やす等の観点でつくし園とも連携できますし、あるいは、そういうことを扱う施設もありますので、そことも交わることで子供達が学校を出てからも支援できるということであります。

三本委員　　それに関連しまして、幼稚園教育についてです。今、子供達が皆で遊ぶ時に、例えばイス取りゲームをしようとしてもルールがわからなくて喧嘩になってしまう、本読みをするからそこに座ってと言っても話を聞く体勢が取れない、ご飯を食べる時に手で食べる等といったことがありますが、これらのことについて、障害を抱えている子供かもしれませんし、家庭でのしつけができていない可能性もあるわけです。その子供達が小学校に上がったときに、その子供達の性格が１年たっても治まらず、その時点でひょっとしたら障害があるのではと見つかる可能性はあるわけです。先程おっしゃられたとおり、特別支援教育が必要な子供は平均９％ということですが、これからもそういう落ち着かない子供が増えていくのではないかと、そして先日、学校応援団として北中で授業をさせていただきましたが、明らかに健全でないのではという子供がいらっしゃいました。クラスの中に必ず何人かいらっしゃるでしょうが、クラスの様子を見ていると、その隣の生徒がサポートしている姿を見て、やはり、学校の在り方においては、お互いの人達が作用することも大事ですけれども、子供達に対して、みんな個性があってそれぞれ違うのだと、そしてこの子にはこのように接してみると良いのでは等を教える部分も学校の役割だと感じました。実際、そのクラスの生徒達はうまく絡み合っていたので、私は感動しました。障害がある子供達はますます増えていくと思われることから、そのまま中学校・高校・大学・社会へと進んだ時に、その子供達が常に受け入れられるように教えることも大人の役割だと感じました。

上屋教育長　それが正にインクルーシブ教育というものでして、障害を抱えた子供もそうでない子供も一緒に学ぶ環境作りに取り組んでいきたいと考えておりまして、親や子供が望めばそのような環境を準備しようということで、普通学級に障害を抱えた子供も入っておりましてそれを望む親もいれば、一方、特別支援学級で学ばせたいと言われればそちらをということで、親の希望に沿った形でということです。そのことについて、普通の親御さんから見ると、いい取組だと思う方もいらっしゃれば、授業が進まないという方もいてその辺りが難しいということで、特別支援教育支援員を配置しまして、その子供に先生が言っていることをしっかり学ばせるようにフォローするといった制度を進めております。ですから今後、特別支援教育支援員の方々をもっと増やしていくことも必要かと考えております。

岩切議長　　予算要求の時とは限らず、そういった実態は教育委員会で把握しておられますか。

上屋教育長　把握して、足りなければ補正での対応を考えています。

岩切議長　　それでは、全体的に聞きたいことはありませんか。他にございませんか。

この前、女子駅伝がありました。その番組を見ていたら、日置市は子供達の駅伝への取組にものすごく力を入れていて、一挙に伸びてきているとのことで、また、市役所にも長距離ランナーが何人もいて代表入りしているとのことで、どのように力を入れているのか研究すべきでないかと考えています。最近の子供達の体力の問題等が色々ありまして、薩摩川内市の子供達の体力が全国で何番目にあるか把握されていますか、また、そのような発表がなされていますか。

上屋教育長　県下の中で何番目にある等の差は比べておりませんが、全国や県と比べて劣っているか優れているかの評価はしておりまして、それでは決して高い方ではなく、平均的なところです。

学校教育課長　種目によって色々ありますが、相対的に柔軟性や持久力は全国よりも低いという状況となっています。ですから学校は、体育の授業を始める前にそういったことに力を入れて取り組んでおります。調査は毎年行っております。

上屋教育長　本市でも、子供達の陸上教室等はサンアリーナで実施しております。学校としてはそういうことですけれども、日置市の場合、駅伝の優秀な人材を採用したということがございます。

軍神委員　　頴娃町では、学校主事が子供達に教えることで強化しているようです。

三本委員　　学校の統廃合により、子供達はバス通学となってしまったことから、登下校等で体を動かす時間が非常に短いのではないかと思うところでして、体力づくりチャレンジということで、５分間でいいから気力や集中力を養うことは体に必要ですが、バスで来てすぐに教室へ入って行くのを見ると、一体、子供達はいつ体を動かすのだろうかと思うところでして、薩摩川内市ではありませんが、ある学校では７時に学校に着くと校庭を走っている子供達が結構いるとのことで、持久走大会に向けてとか部活動のためにということらしいですが、とにかく授業が始まる前に走って教室に入るといった取組ができたらいいのではないかと考えるところでした。

軍神委員　　川内南中が一時期強かった時、４～５連覇した時に、陸上部への生徒指導としてそれを始めて、それに周りの他の部活の子供達が加わってということがありました。

上屋教育長　各学校もそれなりに取り組んでいますけれども、今、田崎中学校が強くて、今年は男女共に全国駅伝に出場ということですが、その指導者は南中が強かった時期に指導していたということで、いい指導者が風を起こすということもあります。先程ございました５分間の体づくりチャレンジも今年から始めていますし、東郷学園につきましてもバス通学になりますから、朝のランニング等が自主的にできるような環境づくりをしようということで、現在の校長先生とも話し合っているところです。

学校教育課長　体力づくりにつきまして、市全体ということではありませんが、特に小学校では朝の始業前に走ったり授業と授業の間の業間体育として取り組んだりしている学校があります。昨日の会議でも、八幡小がそのような取組で全国よりも体力が上がったとのことでしたので、他の学校にも紹介しながら進めていきたいと考えております。

岩切議長　　他にございませんか。それでは、これらの基本方針に従って進めていただきたいと思います。

（５　会次第４：議題２「二学期制の推進」について）

岩切議長　　続きまして、議題２「二学期制の推進」について、教育委員会の説明をお願いします。

※　会議資料に基づき、上屋教育長及び熊野学校教育課長が説明。

岩切議長　　ただいま説明が終わりました。このことについて、何かご意見等ありませんか。

三本委員　　先達て参加したセミナーで言われたことですが、ワークライフバランスは女性のものではなく、育児をする人だけのためのものでもなく、働く人全員の働き方改革ということで、理解と容認をもってモチベーションを上げていくことが大事であるとのことでした。先程、学習指導要領が改定されて平成３２年度からは授業数も増えて、子供達に１日７時間の授業を受けさせなければならない中で対応しなければならない可能性があるということでした。小学生を相手に１日７時間も授業をするのは大変でしょうし、集中力も失われると思います。ですから二学期制に改革して授業数が２０時間弱も生み出されるのであれば、非常にいい改革となるのではないかと考えます。ただ、実際に二学期制を導入された所の成果と課題を整理した時に、２～３点不安なところもありますので、私達教育委員としましては、自分達がきちんと理解し答えられるようなレベルまで協議をした上で、実施できたらと考えます。前回はあって今回の資料にはありませんけれども、新潟県長岡市を調べてみますと、平成１９年度に二学期制へ移行していますが、平成１６年度に５回の検討委員会、平成１７年度に３回、そして、平成１８年度を経て平成１９年度にスタートということで、その議事録を見てみますと、教育委員の方が地元の方達にアンケートを取っているとの文言があってすごいと思いましたが、そこには地域の方々や先生方、子供達が不安になってはならないという言葉があって、正にそういうことですし、現場を担っておられる先生達の意識改革も最大ではないかと思うところです。制度だけ変えても今と同じ状況になってしまっては大変なので、その議事録の中に示されていたのは、明治維新以降、黒船以来の教育大改革として、それだけ重いこととして捉えているとのことでした。長岡市の場合、定例会にオブザーバー参加として他の教育委員会の方も４～５名が入っておられてすごいと思いましたが、そこでみんながきちんと話をして平成１９年度にスタートしたということです。宮崎市も導入していますが、成果として先程課長がおっしゃったとおり、ゆとりが出てきたということで、これまで７月と１２月は通知表を出さないといけないということで先生達が非常に多忙でしたが、出さなくなったことでゆとりが出てきて、夏休みに家庭訪問をして親御さんときちんと話し合いをすることで、教育相談が充実してできたということが書いてありまして、なるほどいいことだと思うところでした。また、それに伴って学力も上がっているということです。いいことですが、課題点として先程、課長から色々な学校行事や学校の在り方について、もう一度原点に戻ってみんなが考えないといけない、というお話でしたけれども、運動会や地域の行事、そして修学旅行等の学校行事を何のためにするかとなったときに、どこに当てはめていくかというのがこれからの大きな課題ではないかということと、もう１つ、私が１番心配しますのが、先生方へのアンケートの中で、必ずしも自分達にゆとりが出てきたという感覚がないということで、先生方にとってどのようにしたら改善できるか、薩摩川内市として「このように改革できますよ」と胸を張ってやれる二学期制にするために、資料にありました業務改善推進委員会が立ち上がったということで、ここをもう少し膨らませて、現場の先生方の声や地域の方々、保護者代表の方々に、効果がある部分と課題がある部分を全て説明し、それをもって皆さんで話し合ってから動いていくのがいいのではないかと思ったところです。

岩切議長　　初めて先の議会で、議会からの質問に対する市の考えを聞いた時、いいことだと思って少し調べてみようと考えていたところでしたが、三本委員からありましたとおり、いい面ばかりで不安な面が表に出てきていない、いいことだからと取り組むのはいいのですが、改革は大事なことで、学校の先生方や生徒達、保護者のみんなが良くならないと、大きな改革にならないと思っていたところです。今、説明を聞いた中で２～３点、質問してみますけれども、働き方改革を含めてメリットがあるとのことですが、県内で取組がないことが不思議でなりません。働き方改革として学校の先生方にはメリットがあるけれども、子供達や保護者達のメリットは出ないのかと。両方に出てくるといいのですが、先生達ばかりのために二学期制をするのかという気がします。それと、県下でしていない所は、二学期制に関して検討もしていないのか、資料では数校ありますが、市町村立では全くないということが気になるものですから、今の段階でわかっている範囲でお願いします。

学校教育課長　市長からありましたとおり、鹿児島市内の付属の小・中と玉龍中、そして高校では鶴丸や中央等１３校がしているということですが、市町村単位で取り組もうという動きは、調べましたがございません。新学習指導要領が実施され授業時数が減ってくるといった影響が出てくるのが平成３１～２年からですので、本市の場合、来年度から英語を実施するということで、その時数を先取りしてということですから、他の市町村より意識を持っているのではと思っています。

岩切議長　　県内で先駆けて二学期制に踏み切るということは、本市のレベルは高いと思っていいということですね。もし、皆さんが保護者の方々を集めて説明会をする時、色々な質問が出ることを踏まえて私がこうして質問しているのですが、そういう自信を持った回答をしていかなければ、そう簡単にはいかないということであります。それから、働き方改革の中で、保護者や子供達について、これまで子供達が休みの時に親がどのように過ごしているかはわかりませんが、働き方改革ではできるだけ働きやすい環境を作ろうということで、市も上げて取り組んでいますが、子供達が休みの間、保護者にはメリットがありますか。

学校教育課長　先日、福岡市に行きまして、全学校に空調を配備しその効果として夏休み期間に授業を実施するということで夏休みを短縮するとして、アンケートをとったということをお聞きしました。それについて、保護者の８割が非常にありがたいと、教職員の８割は反対ということでした。夏休みに授業をすることについて、保護者は非常に前向きでありがたいということであります。

岩切議長　　保護者への理解を高めるということでは、まだ何回もしていないですよね。説明会での質問に対して、教育委員会がどのように答弁するのか、私達も理解したかったものですから、質問してみたところです。あと、他の所で出された二学期制へ踏み切るために保護者から出された意見もまとめておかれた方がいいのではないかと考えます。資料に課題と対応が示されていますが、こんなものではなくまだ相当の意見が出ると思われます。それから、地域の方達の理解ということで、東郷が先行するということで東郷の方の意見は聞かなければなりませんが、親にとっては子供の部活や体育大会等、市内で実施されるものに東郷だけが出られない状況が生じた場合、親がどのように感じるか、どのように説得するかということで地域の理解も必要と考えます。それと、三学期制に戻した所がたくさんあるという話を聞きますが、説明を聞くとこんなにすばらしいことなのに、二学期制は悪くてなぜ元に戻したのかという理由と、市が混乱しないよう戻さないためにカバーする手立てとしてどういったことが必要なのかを調べておく必要があると考えます。それと、子供達は部活があったり塾に行ったりと色々なケースや事情があるかと思いますが、それらの人達が三学期制の学校と東郷小中一貫校との間でスケジュール的にうまくいかないのではということで、例えば東郷では勉強しているのに他の所ではスポーツ大会がある、逆に他の所は勉強しているのに東郷は勉強せずに他のことをしなければならないといった矛盾が出ることを踏まえて勉強しておかなければ、そう簡単にはいかないと考えます。資料にある「方向性」で、「保護者や地域の理解を得て、平成３１年度から試行的に実施する。」ということで大事なのは、保護者や地域の方の考えをきちんと聞いて、その場で質問が出なければ、こういうことがあります、考えられますといったことをしなければ、してみてから大変なことになる、もうやめるといったことがないよう、大事なことですから、そういうことをしっかり押さえて説明会をされた方がいいかと考えます。その説明会の中で「東郷だけでもやろう」という皆さんの意見があれば試行的にしてみて、その結果を踏まえて他の学校にも説明していかないと、東郷と同じやり方でいい方にいけばいいのですが、悪い方にいけば他の所と同じ事になってしまいますから、そういうことを心掛けてされた方が、従いまして、丁寧に説明するということですから、いい学校ができたのにそこがうまくいかなければ、他の学校はどうしようもありませんから、時間をかけてでも十分に説明された方がいいと思います。軍神委員であれば、実際の現場で導入された場合、ある程度は想像できると思いますから、うまくいくように構想を考えていただくということで、市としましても、方向が決まれば積極的に協力していかなければなりませんし、議会対策等において教育委員会だけで済む問題ではないと思っていますので、色々な意見を想定して理解しやすいようにということで、無駄に議論ばかりして実際に動き出してから「そのことに気づかなかった」、「そういうことであればしなければよかった」ということがないようにしていただけるとありがたいです。今、支所の縮小問題にしましても、当初では予想もしなかった問題が出てきていますから、そういうことを全部つぶしてからスタートしないと、大変なことになりかねません。私からは、皆さんが現地に行かれて、質問に答えるための材料をきちんと整理していただきたいと考えます。

他にありませんか。

坂口委員　　二学期制について、色々な話を聞くとメリットは大きいと感じます。県内ではどこも経験していないということですが、私も子供がおりますけれども、夏休みはどうしても子供だけで過ごす時間がありますから、やはり、学校があるとありがたいということはあります。ただ、それぞれの家庭に特色があると思いますし、親の職業によっても差が色々あるかと思います。それらに全て応えるのは難しいと思いますけれども、できるだけ色々な意見は取り入れなければということです。そこで、他の市ではどのような意見が出てどのように取り組まれたのか、うまくいっている所であればこういう取組がよかったとか、逆にもっとこうすればよかったというのを聞いておいて、それを見せたら意見も出しやすく、よりいい形で始められるのではないかと思います。この義務教育学校で始めることはいい案だと思います。どこか他で始めようとなってもなかなかなので、新しく始まる学校で、しかも小中一貫校で始めますよということですから、非常にやりやすいのではということでそこに向けて取り組むことはいいことですが、やはり、そこに至るまでに議論を重ねなければと思います。

上川委員　　私も皆さんと同じ意見ですが、定例会で何回か説明を聞いて、私自身も少しずつ理解を深めてきたという状況です。保護者の気持ちもよく理解できます。ただ、学校の先生方が果たしてそれで楽になれるのか、その点でどちらもＷＩＮ－ＷＩＮとなるように、地域も社会もみんなが絡んでいけたらと考えます。今の学校の先生達はお忙しいということはよくわかるので、先生方が子供達と向き合う時間とかしっかり確保されて、本当の意味でゆとりのある教育ができたらいいなと思いますし、いい形で二学期制がスタートできたらと思います。

軍神委員　　ただ今、市長の話を聞いて、子供達がこういう素晴らしい姿になるのだという施策として教育委員会が出さなければ、やはり難しいのではないかと。もし校長として進めるならば、まず学校の教職員の意思統一を図らなければならないということで、何らかの形で教育委員会の会議でもむ時間がほしいです。そして、それをもんだらアンケートをとるか等はその時に考えるとして保護者へ出す、そして地域があるということでそこにも出す、そして、そこまでが統一された時にある程度進められますけれども、先程、市長が言われましたけれども、中体連とか市とか地域地区とか県とかの関係団体があるので、そこにも持っていかなければなりませんし、それが最終的に教育課程や１年間の健全化計画の中に反映されてくるので、やはり、そこらを考えた時に、生徒達の学力が上がり体力もつけられる、生徒指導の面でもよくなる等といった色々な場面でメリットがあるのが二学期制であるといった理想で作っていただけたらと考えます。私としましては、やってみて失敗もあるかなと思いましたけれども、市長がおっしゃるとおり、失敗してはいけないわけですよね。ですから要は人だと、どこに行ってもそこの人がきちんと理解して、理解したらやるといった意欲ある人達がたくさんいてこそ、二学期制はできると思うので、あと１年ちょっとありますから、教育委員会で十分に説明していかれたらいいのではと考えます。

岩切議長　　それでは、委員からの意見が出ましたので、教育長を筆頭に対応を十分にということで、十分に意見を聞いて理解を深めていくことが必要だと考えます。地元の人達や保護者の人達との語り合いはまだ１回もしていないとのことですから、このような考えであるということを投げかけてみてください。

上屋教育長　東郷学園における二学期制の説明は多少しておりますが、２月中旬に開校準備委員会を開催しますので、そこで説明し教育委員会の意向をお話したいと考えています。東郷学園における教育課程は今年の１０月頃までに定めなければならなりませんが、その際、二学期制にするか三学期制のままにするかで教育課程の作り方が大きく違うことから、ぜひ二学期制の方向で教育課程を作った方がいいのではないかと思っていますので、私としましては、学校管理規則を「できる規定」に変えた上で、こういう学校づくりをしたいということを地域や保護者の方に説明し理解をいただけたら二学期制に基づいた教育課程作りに入りたい、という考えでございました。丁寧に説明していくとなると、やりたいことの時期をずらさなければなりませんが、東郷学園は新しい学校としてスタートしていますから、それをまた２～３年後に改めて二学期制にしていくというのは、多少難しいと考えます。

岩切議長　　そういうことではなくて、日程が揃えば明日からでも説明していいわけですから、１人１人するということではなくて、まずは小規模な学校にいる保護者の方達を集めて地域毎に説明会をする等すれば意見は出てくるわけです。まずは意見を聞いて大半がいいだろうということであれば、どんどん作業を進めるということで、東郷学園をモデル校として常にこのようなことを考えているといった前置きをしながら皆様の意見を聞くということで意見も聞かず強引にしてしまうと、ということを言っているのです。

上屋教育長　規則を変える前に地元等への説明をしてもいいのではということですか。

岩切議長　　はい、そうです。規則の改正は内部のことですから。

上屋教育長　その辺りは、また色々と考えてみます。

岩切議長　　地元等への説明を１回でもしていて、その中の大方が賛成であるという意見であればまとめやすいでしょうけれども、準備委員会等へは説明していても地元へはしていないということでしたから。現在通学している中学生の保護者を集める、また、できたら小学生の保護者も集めて、地域を絞りながら１～２回された方がいいのではないかということです。その意見を見た上で、教育委員会等を開いて最終的な結論を出された方がいいかと考えます。管理規則の改正は事務的に進めたらいいのではないかということです。できる規定ですからそれでいいのではないでしょうか。こんな質問が出たらどうするかということを考えておかなければ、後になって「いや、そんなことは聞いていない」とか必ず出てきます。先程ありましたとおり失敗するわけにはいきませんし、モデルとしてしっかりしたものを作り上げないと他の学校にまで影響が出かねないということです。できるだけ早く地元に下ろさないと、議会にも説明できないということです。

上屋教育長　教育委員会で東郷での説明会を開いて、色々な意見を聞きたいと思います。

岩切議長　　いい事例や悪い事例を調査して、その悪い事例を本市ではどのように消化するかをしっかりとしておかなければならないということです。鹿児島県の教育委員会はどう考えているのですか。

上屋教育長　色々な考えがありますけれども、鹿児島県自体、このような教育改革等についてはややということで、小中一貫教育につきましても私達が言い始めて進んできましたし、コミュニティ・スクールの導入も全国ではすでに実施されているのに、鹿児島県だけが０件という時期がありました。それを本市と南さつま市が取り組み始めて徐々に広がり、今、鹿児島県で１０～１５％になってきたということです。そのようなことから言葉は適切でないかもしれませんが、やや後ろ向きなところがあります。ですから、薩摩川内市が先に引っ張っていかなければという考えがございます。

岩切議長　　逆にこういうことは、県の教育委員会が音頭をとって実態等を調べて、こういう方向で進めたらどうかという情報を流してくれるのが一番いいのでしょうけれども。

上屋教育長　二学期制については、県が音頭をとって云々ということはなくて、各自治体がそれぞれで取り組んでいるようです。

岩切議長　　また毎月の教育委員会の中でも意見を聞いてみてください。

それでは、議案が終わって報告案件に入ります。

（６　会次第４：報告１「薩摩川内市立東郷学園義務教育学校の校章とシンボルマークの制定」について）

（７　会次第４：報告２「薩摩川内市立東郷学園義務教育学校の校歌の制定」について）

岩切議長　　報告１「薩摩川内市立東郷学園義務教育学校の校章とシンボルマークの制定」について説明してください。

※　会議資料に基づき、熊野学校教育課長が報告案件２件を一括説明。

※　音源ＣＤにより、校歌を試聴。

岩切議長　　以上、報告でしたけれども、皆さんよろしいですか。校歌の作詞について、私の所へ最初に来た資料では教育長名となっていたことから、教育委員会でそのように決まったということでしたから、それはいかがかと申し上げたら、今日の資料では開校準備委員会に変わってきました。準備委員会には話をされましたか。

上屋教育長　いいえ、まだです。これから話します。

岩切議長　　話を聞くと教育長でもいいのですが、学園を作る最高責任者として今後もその名が残っていく中で、果たしてそれでいいですかということを教育長に聞いたところ、教育長も迷っていましたが、作詞が教育長というのはいかがかということもありますけれども、委員の皆さんからのご意見では代表作詞でどうかということもあったようです。

三本委員　　歌詞のフレーズの応募が１００８点ありまして、その中から２１１文字を選んで歌詞を作る・校歌を作るということは大変な作業であるということで、資料には作詞が開校準備委員会とありますが、大元は準備委員会とし共同作詞として教育長の名前があってもいいのではないかと、私個人の考えとしてあります。それを開校準備委員会に諮られたらどうでしょうか。

上屋教育長　準備委員会の了解は得ようと思っています。

岩切議長　　できたら学校長とかにした方が問題ないのでしょうけれども、そのようなことを考えたものですから教育長と話をしたのですが、今日の資料では開校準備委員会と修正されたところです。

上屋教育長　私としましても、自分の名前を出すことは非常に控えたかったのですが、担当者と話し合いながら、とりあえず私の名前でということにしました。確かに私は歌詞作りに携わりましたが、できたら開校準備委員会とかみんなで作ったとした方がいいのではないかという気持ちがあります。

岩切議長　　永遠にこれが残っていくので、代表作詞ではなく作詞でいいかもしれませんが、皆さんから集めた言葉を使って作ったということで、なかなか難しいです。教育長にはこういった才能があったわけですが、今の東郷の中学校や小学校の校長の名前をそのまま使うことができたらいいのですけれども、私としてやはり東郷学園を作った人がということで、ここは逆に代表作詞とせず、あの人に作ってもらおうということで決めたのであればそれでいいのではないかと。

上屋教育長　私が有名な作詞家だったらよかったのですが。

坂口委員　　開校準備委員会となると、ちょっとわかりにくい気がします。

岩切議長　　難しいです。このまま案として持っていけばそれに決めてきたとなってしまうので、このような意見等が出たがどうか、どれがいいかということを聞いてみてはどうでしょうか。

（８　会次第５：その他）

岩切議長　　それでは、「その他」ということで何かございませんか。今朝の新聞で、とてもいい考えと発想のものが出ていました。昨日、地区コミュニティ協議会の会長会議を開きましたが、自治会の存続が難しいということ、パブリック公募をするにしても財産の問題があってこれも難しいということで、板ばさみの状態にあるとのことでした。そのような中でこういった発想が出るということは、やはり若い人達の力だと。同じ敷地内になく何キロも離れていると、ＰＴＡの会議であったり学校での色々な愛護作業であったりと頻繁にそれぞれ出なければならないということから、小学校と中学校のＰＴＡを一緒にするというのはいい発想です。くしくも今朝の新聞に出ていたので本当によかったです。ＰＴＡもこのような発想をする時代になったということです。

上屋教育長　小中一貫教育を始めて、また、コミュニティ・スクールを実施しながら、こうありたいと話題になっていました。中学校のＰＴＡ会長がとてもよく進めてくれました。本当によかったと思います。本市の場合、他にも１小１中である学校が里や上甑等にありますから、今後、そういった動きがあるかもしれません。

岩切議長　　それから、福岡市の学校の先生が暴行を起こした事件がありましたが、それを一番問われるのは教育委員会だと思います。教育委員会に報告していなければ現場責任で問われるでしょうけれども、教育委員会に報告していたのにということで報道がなされています。教育委員会が１ヶ月近く何も公表しなかったということで、ここが１つの問題だということです。校長先生によるインタビューでは、教室ではなく廊下で殴ったということでしたが、生徒達はトイレで殴られたと言っており、これも後々トラブルになると思いますが、本市ではそのようなことはないと思いますけれども、現場で何か事件・事故が起きたらすぐに教育委員会へ届け出るような指導を校長会等でも常々言っていますか。隠したりばれたりしたらいけないということもあるかと思いますが、後は教育委員会が対応すればいいわけですから、教育長として校長会等でも指導された方がいいと考えます。

上屋教育長　それについては、本市でも似たような事例はそれなりに大なり小なりあります。ですから、教育委員会と一緒に対応しようということで、すぐ報告するようにということでしています。

岩切議長　　それと、鹿児島市内の県立高校の生徒が自殺をして、三反園知事が教育委員会の対応はだめだとして、もう一度当局で調査するといったことがありましたが、これはどうなのですか。

上屋教育長　県教育委員会の調査が保護者の意向に沿っていなかったことからやり直せということで、今度は県知事が県として調査するということになったものです。いずれにしても初期対応がまずかったということで、保護者・生徒への聞き取りやそれに対する学校の指導が常に遅れていたということです。ですから、私達も初期対応をということで、何かあったら教育委員会も校長先生と一緒に協議しながら対策を考えるといったスタンスを大事にしています。

岩切議長　　こういうことで話題になっても何も得しませんから、教育委員会としましても一生懸命がんばってください。

それでは、私からは以上ですので、後は事務局で整理してください。

（９　会次第６：閉会のことば）

総務課長　　委員の皆様におかれましては長時間、ご協議いただきまして誠にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第４回薩摩川内市総合教育会議を終了いたします。おつかれさまでございました。

【閉会時刻　１５：２５】